

平成27年度事業報告書

(一社) 日本ジュニアヨットクラブ連盟

(概要)

当連盟は、内閣府より平成25年4月1日付にて「非営利型の一般社団法人」への移行認可を取得し新法人として発足し、本年は定款第5条に規定される諸事業を実施した第3年度です。

(事業活動)

継続事業 1. ジュニアヨットクラブの普及活動と競技会開催に関する事業
(定款第5条 第1項 第3号及び第7号)

実施事業 I. 国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会2015 (宮古大会)

7月31日(土)～8月2日(日)、岩手県宮古市のリアスハーバー宮古を会場に、岩手県ヨット連盟、みやこジュニアセーリングクラブ、宮古市、宮古港開港400周年記念事業実行委員会との共同主催にて開催しました。

2011年3月11日の東日本大震災と大津波により壊滅的な被害を受けた宮古市の皆さんを始め東北地方の復興を応援しようと、開港400周年を迎える宮古港での競技会開催を決定しました。

本年も独立行政法人日本スポーツ振興センターの助成を受け、宮古市からの補助金と沢山の地元企業からのプログラム広告料の支援を頂きました。アサヒ飲料株式会社、エスビー食品株式会社の協賛を頂き、競技会期間中の飲物、最終日のカレーライスを提供出来ました。海外からニュージーランド、オーストラリア、香港、韓国の4カ国を招聘しましたが、韓国が地震等の影響を心配し参加を取止めてしまいました。

国内クラブ対抗レースの上位3クラブには、海外セーリング研修派遣資格各1名授与の特別賞を設けました。又、B海面のOP級初級者はチャーター艇10艇を準備し、乗廻し方式のレース運営で16名が参加しました。A海面はOP級上級者34艇(内、外国7艇)、レーザー4.7 5艇(内、外国2艇)、国際420級11艇(23名)、FJ級4艇(8名)の参加選手88名、指導者・保護者77名、運営役員60名余の総勢250名の規模となりました。本競技会から、シーマンシップに溢れた選手を表彰する「小澤吉太郎特別賞」を設けましたが、三重県ヨット連盟ジュニア・ユースヨットクラブの藤田健太郎選手に授与されました。国内クラブ対抗レース上位3クラブに授与される連盟会長特別賞(海外セーリング研修参加資格授与、渡航費援助)は、夢の島ヨットクラブ、葉山町セーリング協会、藤沢市青少年セーリングクラブとなりました。

実施事業 II. 第4回ジュニアヨット国際親善大阪レガッタ (ミキハウス杯 大阪2015)

昨年は諸般の事情で中止されましたが、本年は9月19日(土)～20日(日)、一昨年と同じ会場ですが、民営化されて名称が変更された大阪北港マリナーで、三起商行株式会社(ミキハウス)の特別協賛と、大塚製薬株式会社、ゆうこうマリン株式会社の協賛を頂き、大阪北港ヨットクラブ、

大阪北港ディンギークラブ、大阪北港マリーナ（biid株式会社）の協力を頂いて、2年振りに開催出来ました。初日19日は在日外国児童向け体験試乗会を行い、芦屋インターナショナルスクールの児童6名、保護者・教師6名の参加がありました。

参加クラブは4クラブ21名の選手、指導者・保護者18名に運営役員30名余の合計80名規模でした。海外セーリング研修参加資格授与の連盟会長特別賞は、三重県ヨット連盟ジュニア・ユースヨットクラブになりました。

実施事業 III. 第25回ジュニアヨット国際親善東京レガッタ（ミキハウス杯 東京2015）
9月6日（日）、東京都立若洲海浜公園ヨット訓練所を会場に、三起商行株式会社（ミキハウス）の特別協賛と大塚製薬株式会社の協賛を頂き、東京都ヨット連盟との共催で開催しました。

参加艇数は、OP級上級者28艇、OP級初級者31艇、レーザー4.7が3艇のエントリーでした。直前の怪我のためレーザー4.7の1艇がレースには不参加となりましたが、合計で62艇でした。指導者・保護者に運営役員その他に加え、江東区のケイ・インターナショナルスクールの外国人の子供や保護者の体験試乗会に子供が21名、保護者等の帯同者が28名計49名の参加で総勢200名以上となり賑やかな、国際色豊かな大会となりました。

沖のA海面は生憎風が弱く、出艇したものの待機が長くなり、1レースのみで終了となってしまいました。ポンド内のB海面は弱い風ながら3グループに分けて予選6レース終了で13:55となってしまったので、参加クラブのコーチ、責任者に集まって頂き、帆走指示書の最終予告信号予定14:05を延長して決勝レースを行う了解を頂いて、無事に決勝3レースを実施しました。

海外セーリング研修派遣資格授与のクラブ対抗レースは昨年に続き葉山町セーリング協会が優勝しました。

実施事業 IV. ジュニアヨットクラブジャンボリー

今年の国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会が東北の宮古市での開催の為8月になったことから、第3回ジュニアヨットクラブジャンボリーは2泊3日で、5月3日（日）～5月5日（火）のゴールデンウィークに、場所は同じ静岡県浜松市の「三ヶ日青年の家」で実施しました。各クラブの子供達がクラブ毎ではない合同合宿をしながら、ヨットレースだけでなく夏の行事に相応しいキャンプファイヤーや水辺の遊び、山の遊びを楽しみ、交流を深め友達の輪を広げる企画でした。

参加10クラブ、39名の選手に、指導者・保護者他30名、役員・コーチ9名と昨年より参加人数が増えて総勢78名となり、参加の皆さんは大変楽しんでいました。

継続事業 2. 諸外国との交流・親善に関する事業
（定款第5条 第1項 第4号）

実施事業 V. 外国チームの招聘事業

毎年開催している「国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会」に外国チ

ームを招聘し、交流と親善を図っていますが、今年は競技会が東日本大震災復興支援という趣旨で岩手県宮古市での開催となり、4カ国招聘しましたが、毎年参加の韓国チームが最終的に保護者の不安感もありキャンセルとなり、3ヶ国9名の外国チーム選手と監督・コーチ・保護者7名の合計16名の参加となりました。

国際交流ジュニアヨットクラブ対抗レースでは夢の島ヨットクラブがニュージーランドチームに勝って優勝しました。ニュージーランドチームには新しく準備した当連盟会長の特別杯を外国チーム第1位として贈呈しました。

外国チーム招聘関係諸費用は、国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会への日本スポーツ振興センターの助成金の対象経費にはならないので、宮古市からの宮古港開港400周年記念事業の補助金と連盟の自己負担支出により事業を進めました。

実施事業 VI. 海外セーリング研修派遣事業

- (1) 8月開催の「国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会2015」の国内クラブ対抗レースの上位3クラブに、海外セーリング研修参加資格を授与する特別賞を本年度も設けました。特別賞を授与されたクラブは第1位 夢の島ヨットクラブ、第2位 葉山町セーリング協会、第3位 藤沢市青少年セーリングクラブでした。前年度に引き続いて研修地はシンガポールとなり、平成28年3月14日(月)～3月21日(月)の期間に連盟役員、佐藤公俊委員(国際委員会委員長)と山下弘雄(国際委員会委員)が引率して、その往復渡航費用を連盟で負担支援しました。各クラブからの希望もあり、費用自己負担で各クラブ1名の追加参加を認めたので、2クラブから追加参加があり合計5名のジュニアセーラーが参加しました。
- (2) 9月開催のミキハウスカップ東京2015とミキハウスカップ大阪2015のそれぞれの優勝クラブに海外セーリング研修参加資格を授与する特別賞を本年度も設け、それぞれ優勝クラブの葉山町セーリング協会と三重県ヨット連盟ジュニア・ユースヨットクラブに授与されました。本年度は、関東水域OP連絡会が主催する第10回タイクリニックに参加しての海外セーリング研修とすることとして、その渡航費用と参加費用を連盟で負担して、3月19日(土)～26日(土)タイ王国バンコックに原田浩二委員を引率役員として派遣しました。
- (3) 本年度も、オーストラリアのロイヤル・パース・ヨットクラブから西オーストラリア選手権と位置づけられる「ロイヤル・パース・ヨットクラブ・ディンギー・ミニシリーズ2016への招待がありましたので、連盟登録クラブに呼び掛けたところ、B&G高松海洋クラブからOP級 2艇、レーザー4.7 1艇、YMFSジュニアヨットスクール葉山からOP級 1艇、レーザー4.7 2艇の計6名の選手の応募があり、小野澤秀典理事が引率して、2月3日(水)～10日(水)の日程で参加しました。現地費用は全てオーストラリア側負担ですが、渡航費その他諸費用は自己負担でした。過去2回の参加実績を踏まえて、今後の海外セーリング研修の一つとして企画する事が出来るか検討することとしました。

継続事業 3. ジュニアヨットクラブの指導者の養成に関する事業 (定款第5条 第1項 第1号、第2号及び第5号)

実施事業 Ⅷ ジュニアヨットクラブの指導者の養成に関する事業

(1) 管理運営及び安全確保に関する指導事業

平成27年6月20日(土)開催の平成27年度定時総会後の翌日21日(日)に指導者講習会を開催して、ジュニアヨットクラブの管理運営及び安全確保に関する指導をしました。

又、平成27年7月31日(金)～8月2日(日)岩手県宮古市で開催の日本ジュニアヨットクラブ競技会2015の開会式後に、選手、指導者、運営役員を集めて、丸山晴久理事(医事委員長)による熱中症対策その他の安全講習会を開催しました。

(2) 指導者の養成事業

連盟の公認指導員制度に従って、各クラブから新規公認申請の募集を行うと共に、4年毎の更新認定の募集を毎年行っていますが、本年度は事務が遅れています。鋭意事務局で努力しています。

(3) 管理運営及び安全確保に関する調査研究事業

本年度は特に調査研究する事業がありませんでした

継続事業 4. 広報誌「ユースセーリング」の発行事業
(定款第5条 第1項 第6号)

実施事業 Ⅷ 広報誌「ユースセーリング」発行事業

ジュニアヨットクラブに関する広報活動の内、ホームページによる広報活動は連盟の通常活動として実施しており、従来よりも充実して来ていますが、広報誌「ユースセーリング」の発行事業は諸般の事情により遅れています。平成25年度に発行が出来なかった第83号は平成27年3月31日(平成26年度内)に発行出来ましたが、第84号は平成27年度内に発行が間に合わず、鋭意発行準備をしております。

その他の通常活動として、希望する事前登録メンバー(正会員、特別会員、登録クラブの指導者、保護者、ジュニアセーラーその他セーリング界関係者)に「JJYU通信」をE-mailやファクスで発信する企画を開始しました。昨年度「通信 6」まで発信しましたが本年度は「通信 7 と 8」を発信しました。

(会員、クラブの状況その他)

(1) クラブの代表者である正会員は平成28年3月31日現在32名、学識経験者である正会員は20名で正会員の合計は52名です。

(2) 登録クラブ数は平成28年3月31日現在32です。

(3) 特別会員は、従来からのアサヒホールディングス株式会社と株式会社ライフサイエンス研究所に、昨年度から株式会社三洋物産、株式会社三洋販売が入会して頂き、本年度はスターモア化粧品株式会社に入会して頂き、平成28年3月31日現在で5企業です。

(4) 連盟会長表彰

当連盟の定款に定める目的及び事業に照らし、その業績が顕著な者或いはジュニアヨットクラブ等の団体を連盟会長名をもって行う表彰制度を、平成27年5月20日の平成27年度5月度理事会において決定し、平成27年6月20日開催の平成27年度定時総会に報告して、当連盟の「表彰規程」を施行することとしました。

平成27年度の表彰者について2回の表彰委員会で審議の結果を、平成27年11月27日開催の平成27年度11月度理事会に諮り、下記5名が決定しました。

表彰式と表彰状、記念品の授与は、平成27年12月19日開催の平成27年12月度理事会終了後に横浜聘珍楼において行いました。

記

- ① 故・二村種義氏(74歳 なごやジュニアヨットクラブ代表)
- ② 三澤博敬氏 (81歳 B&G新潟海洋クラブ元代表)
- ③ 長谷川克也氏 (76歳 函館ジュニアヨットクラブ元代表)
- ④ 多田正暁氏 (69歳 石川県セーリング連盟所属)
- ⑤ 後藤憲二氏 (68歳 酒田ジュニアヨットクラブ元代表)

尚、公益財団法人日本セーリング連盟の平成 27 年度定期表彰については、当連盟より推薦した香野俊一氏(松島・名取ジュニアヨットクラブ)が功績賞、島田重司氏(小樽ヨット少年団)が優秀指導者賞を授与され、平成 28 年 1 月 23 日、岸記念体育館において表彰式が行われました。

以上